

博士学位論文審査結果の概要

ふりがな	らん なおみ
氏名	蘭 直美
学位の種類	博士 (看護学)
学位記番号	甲第 24 号
学位授与年月日	令和 4 年 3 月 19 日(学位授与式の日)
学位論文題目	低栄養の課題を抱える在宅要介護高齢者を対象とした多職種による個別の食支援とその効果
審査委員	主査 石川県立看護大学 教授 小林宏光 副査 石川県立看護大学 教授 林 一美 副査 石川県立看護大学 教授 塚田久恵 副査 石川県立看護大学 教授 川島和代

審査結果の概要

本研究は在宅高齢者の低栄養の問題に取り組んだ研究である。本論文は 5 つの章で構成されている。

第 1 章では、在宅高齢者の低栄養に関して、その実態や関連要因、サポート方法などについて過去の文献を参照しながら総合的に概説した。

第 2 章では、23 名の在宅要介護高齢者を対象にし、摂食嚥下機能の調査および食事内容などの生活状況の聞き取り調査を行った。その結果ほとんど(90%以上)の対象者が低栄養または低栄養のおそれありと判定された。この結果から在宅高齢者の低栄養問題の深刻さおよびこれに対応する支援の必要性が示された。

第 3 章では、先に示された実態調査の結果を踏まえ、低栄養と判定された在宅要介護高齢者 10 名を対象に老人看護専門看護師が管理栄養士、摂食嚥下障害看護認定看護師と協働し 3 ヶ月間の介入を行った。介入前後及び 2 ヶ月後の 3 回、握力、血清アルブミン値、および摂食嚥下機能や栄養状態の総合的指標である KTBC(口から食べるバランスチャート)を測定した。介入前後で握力、血清アルブミン値には有意な変化が見られなかったが、KTBC の「栄養」と「口腔状態」は有意に改善し、またこの改善は介入終了 2 ヶ月後にも維持されることが示された。

第 4 章では、第 3 章の研究で扱った対象者のうちの 80 歳代女性 1 名を取り上げ、生活・食事の状況および体重・血清アルブミン値の約半年間にわたる推移、またこの対象者へのサポート内容など、この事例に関する詳細な記録が報告されている。

第 5 章では、1~4 章で示された内容を総括するとともに、在宅高齢者への食支援に関して積極的な提言を行っている。

本研究の 2 章の内容は既に査読付き学術雑誌(日本在宅ケア学会誌)に掲載されており、3, 4 章の内容に関する 2 篇の論文が現在投稿中である。

以上述べたように、本研究は実態調査、客観的指標による介入効果の検証、個別の事例の検討など多面的なアプローチで在宅高齢者の低栄養の問題に取り組んでいる点が特徴である。また本研究で実施された老人看護専門看護師、摂食嚥下障害看護認定看護師、管理栄養士の連携による地域高齢者への栄養サポートはこれまでにないユニークな取り組みである。本論文の内容は学術的な価値のみならず看護実践への重要かつ新規性のある提案を含んでいると考えられる。

2022年1月26日に開催された審査会では主に5章の結論部分の表現について意見が出されたが、2月9日に提出された修正原稿では適切に修正されていることを審査委員が確認した。これにより審査委員会は本論文は本学看護学研究科の博士学位論文にふさわしい内容であると判断した。